

協働のベース となるもの

2014.2.19
コクダイマルケン2013

国立大学法人
東京海洋大学
伊達 精也

1 取組

(1) 第1回国立大学法人若手職員勉強会 (@国立大学財務・経営センター) に参加 (2007)

基調講演

学長等アンケート
→法人化後の職員の役割の変化

やりがい
期待感

事例発表

- ・自主勉強会
- ・職員主導のGP事業
- ・コクダイパン設立

職員の可能性

分科会

- ・堂々と人前で論理的に考えを述べる若手職員

危機感

大学職員としての「はじまり」と「つながり」の場になった

（２）自主勉強会～イベント出展、報告会（学内）

- ・学内自主勉強会（2007.12～2008.4）、若手職員
メーリングリスト作成
- ・地域開放イベントへ出展
芝浦工業大学「大学開放DAY！」（@豊洲）
2008年，2009年参加（職員10名超程度）
「お魚ぬり絵大会～めざせさかなクン！」
- ・第2回国立大学法人若手職員勉強会報告会
（2008.10） 等

(3) 海洋大職員グループとして 他大学職員との交流など

- ・東工大を好きになろうプロジェクト来学（施設見学・ワークショップ等 2009.11）
- ・筑波大学大学研究センター 大学マネジメント人材養成フィールド調査（意見交換会等・2010.9）
- ・岩手大学から人材養成等に関する調査（意見交換会・（2011.11）
- ・岩手大学VISTAシンポジウム参加（2012.10）
- ・横浜国立大学「学びのひろば」参加（2014.1） 等
本学若手・中堅職員と一緒に参加（大学公認）

個人の外部とのつながりを、周囲へ

(4) 個人として

- 国立大学法人若手職員勉強会企画委員
(第2回、第3回 2008、2009)
- 大学創生エンジン2011、2012、2013 (国公立大学 中堅職員向けプログラム) 実行委員
※「大学マネジメント」2014年1月号に関連記事。
- 大学コム (U-COM) (私的勉強会。国立・私立大学職員10数名で構成。職位も様々。)
(2009～途中参加)



担当分野、設置形態等が異なる他大学の職員と協働や勉強会の実施

→情報面でも精神的エネルギー面でもプラスに

→他大学職員とのネットワークから新たな可能性が生まれる

本題

2 協働に必要なこと

・協働とは、同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くこと。

(大辞泉)

- ・専門的能力を高めることが重要
(知識・スキル等向上)
- ・他方それだけではうまくいかない

協働を実現するには、
ベースとなる信頼関係を築くことも重要

（１）信頼関係の重要性を感じた出来事①

筑波大学 大学研究センター 大学マネジメント人材
養成プログラム フィールド調査訪問

（内容）

- 図書館視察、海洋大図書館の取組紹介
- 若手職員の取組紹介
- 来訪学生（他大学職員）、学長、図書館長、事務局長、図書館職員、若手事務職員交えてディスカッション

（感想）「組織内のコミュニケーションがとれている」

「この雰囲気なら教職協働とあえて言わなくてもよいですね。」

なぜそうなのか？

(2) 信頼関係の重要性を感じた出来事② 学内自主勉強会立ち上げの経験

喫茶店にて

(必要な要素)

- 最初の一人
- 核となるメンバー 数名
→さらに広がり

もともとあった信頼関係
+最初の一步

（３）協働の現場 ケース①

国立大学若手職員勉強会 企画委員会での経験

- 他大学、様々な分野のメンバー構成（会うのはほぼ初めて）
- 多様な意見をだしてほしい，メンバーの意見を生かしたい
→公平性，投票を重視→なかなか決められない。時間が不足・・・
- 最初は、信頼関係が不足。
- 自分の意見にこだわりすぎない（余白を残す）。
- リーダーは、判断する，責任をとる。フォロワーは意見を出し十分話しあったら，信頼して判断を任せる。

（３）協働の現場 ケース②

大学創生エンジン実行委員会の場合

国公立大学の実行委員から構成（１５名程度）
委員長、メソッドの存在
コンテンツ、会場関係、懇親会等を数名ずつで分担
若手編集委員のつながり+各人のつながりがベース

信頼関係をベースに、委員長のリーダーシップと
メンバーのフォローが、かみ合っている（円陣）

（４）信頼関係を築くために①

人とのつながりを強め、信頼関係を築くには

- ・ロジカルな納得
 - ・パーソナルな共感
- 両方必要

後者がおろそかにされがち。
共感を得るには？

（４）信頼関係を築くために②

・ 自分や自分の思いについて少し語る

・ 人の話に耳を傾ける（傾聴）

共有・共感

(4) 信頼関係を築くために③

トレーニング：5分間スピーチ

大学職員の間（U-COM）の定例会（2か月に1回開催、10名程度）にて実施

- 1 5分以内で好きなテーマについて話す
（近況、見聞いたこと、感じたこと等なんでも）
 - ・ 5分以内で一番近い人が優勝（遊びの要素）
- 2 聞いた人全員から、話・人の印象について、フィードバックの言葉をシールでもらう（52の美徳の言葉から一人2つずつ選ぶ）

楽しみながら、話すこと、聴くこと
を通じて、共感・共有を体感

3 図書館職員と他部署職員の協働

図書館職員の強み？

事務系職員の強み？

目的の共有

- 学生、教員を巻き込む
- ネットワークの相乗効果
- 社会を意識

4 おわりに

- 「つながり」は一生続く（山形大学 小山清人先生の言葉@国立大学法人若手職員勉強会）
- 人としてのマナー、礼節を大切に（あいさつ、感謝）

協働するために
まずは、できることから